

## 過去の委員会における主な意見に対する対応方針(案)

令和 4年 3月18日

## これまでの委員会における主な意見に対する対応方針(案)

No.	委員会	主な意見	対応方針(案)	備考
1	第3回 資料-3	侵食作用に対する安全性検証の中で求める最大洗掘深については、時刻歴の中で最大の洗掘深を採用すべきである。	ご指摘を踏まえて、解析完了時に最大洗掘深を記録した地点における、時刻歴の洗掘深のうち最大のものを採用します。	資料-4-1 p12~16
2	第3回 資料-3	低水路の流速が護岸の力学設計法で算出した値が非常に大きいと感じる。係数を乗じてここまで大きくならないのではないか。	護岸の力学設計法の補正係数のほか、粗度係数の違い等が影響していると考えられます。	資料-4-1 p17 資料-4-2 p 3
3	第3回 資料-3	淀川左岸線（2期）では、浸透対策の優先順位は川表、川裏の順であったが、淀川左岸線延伸部の浸透対策の優先順位はどのように考えているのか。対策の優先順位を明確にすること。	淀川左岸線（2期）の対策の順序を踏まえて再度優先順位を整理しました。その結果、淀川左岸線延伸部は淀川左岸線（2期）と異なり川裏側にドレーンがあるため、その機能を復旧することを最優先と考え、川裏対策を優先することを基本としています。	資料-4-1 p27~29 資料-4-2 p5~7
4	第3回 資料-3	地震時における函体の回転現象はいつ頃生じるのか明示してほしい。	道路ボックスの回転挙動を明確にすることを目的として、回転角の時刻歴変化をグラフ化しました。	資料-4-1 p46
5	第2回 資料-3	土—水連成2次元弾塑性解析の結果をもとに、必要に応じて縦断方向の検討も実施すること。	対象区間では地盤改良が必要となり、その改良を行った場合には、縦断方向での相対変位はほとんど発生しないことを確認しています。	資料-4-1 p59
6	第2回 資料-3	圧密沈下の検討では、土—水連成2次元弾塑性解析による詳細な照査手法を提案しているが、1次元圧密解析のような簡便な照査手法を併用することで、大局的な視点で評価を加えていくのが良い。	第5回委員会にてご報告します。	—
7	第3回 資料-3	不同沈下などにより天端に段差が生じると水がたまることが懸念される。維持管理面での十分な配慮が必要であるため明記しておくことが必要である。	不同沈下により生じる堤防表面の排水不良は、堤体内水位の上昇や水みち形成を助長する要因となるため、定期的な点検・補修を行うとともに、雨水が溜まりやすい箇所への排水処理を施すことで、排水不良を予防することを考えています。	資料-5 p47~48
8	第3回 資料-3	10cmを超えるような不同沈下が生じた場合のシナリオについても記述することが必要である。	定量的評価の妥当性検証モニタリングによる地盤変位計測や、定期的な点検などにより、不同沈下の発生状況を監視します。また、状況に応じて個別調査を行い、構造物まわりのゆるみ、空洞、水みちの形成状況などを調査することで、適切な措置を検討します。	資料-5 p49~50
9	第3回 資料-3	碎石層で目詰まりが生じるなど最悪のシナリオを想定し、その時の対応についても考慮してほしい。	碎石層の機能が低下した場合の機能復旧方法に関して事例収集などの調査を行い、その結果について記述します。	資料-5 p51

## これまでの委員会における主な意見に対する対応方針(案)

No.	委員会	主な意見	対応方針(案)	備考
10	第2回 資料-4	堤防および道路構造物の一体構造に関する安全性検証を行ってきたが、道路構造物単体としての整理の位置付けについても表現しておくのが良い。	道路構造物単体としての整理の位置付けについて、検討をとりまとめる段階で、明記する予定です。	—
11	第3回 資料-3	根固めブロックと土など異種の材料が接する境界では洗掘による被災が生じやすいため、構造的な配慮を適切に行っておくことが良い。	ご指摘を踏まえて、吸出し防止対策を図るなどの構造的な配慮を行います。	—
12	第3回 資料-3	施工時における超過洪水に対する対応をどのように考えるのか。例えば、川裏に侵食防止シートを設置するなどの対応が有効と考える。	淀川左岸線（2期）の対応状況なども踏まえて整理し、 <b>第5回委員会</b> にてご報告します。	—
13	第2回 資料-4	今回整理した断面選定の考え方が適用できる構造条件等の範囲を事前に整理することで、条件変更が生じた場合でも、その安全性を評価できるようにしておくことが良い。	今回の断面選定の考え方が適用できる構造条件等の範囲について、今後の検討を踏まえて整理し、 <b>第5回委員会</b> にてご報告します。	—
14	第3回 資料-3	各作用に関する安全性検証は独立して実施しているため、ある対策が他の作用に対して影響を及ぼすことがあるのではないかと。	各作用時で求めた対策が、その他の作用時に影響を及ぼす可能性はあるため、各作用の安全性を確保できる包括的な対策について明示します。安全性については、安全になることが自明であれば、数値解析を省略することも可能といった考え方等についても整理し、 <b>第5回委員会</b> でご報告します。	—
15	第3回 資料-5	3次元縦断耐震解析ですべりや構造的な非線形性を考慮することはかなり困難な検討となると考えられる。淀川左岸線（2期）の事例なども参考に、適切な検討を行うことがよい。	ご指摘を踏まえて、解析を実行する前にその方針を整理し、適切な3次元縦断耐震解析を実施していきます。検討結果については、 <b>第5回委員会</b> でご報告します。	—